

第305号



HYOGOニュース

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会
〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38
TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256
E-mail info@hamt.or.jp

編集委員
鳥居良貴 / 増井 裕 / 市丸加奈子 / 石野瑠璃
小松敏也 / 松田武史 / 真田浩一 / 藤本宏巳

臨床検査情報センター
URL <http://www.hamt.or.jp>

今月の内容

- 第29回 医学会総会 2015 関西 1~2
- 《各部局報告》・平成27年度(第55回)日臨技近畿支部医学検査学会一般演題(口演のみ)募集のお知らせ 2~3
- 《行事予定表》 4~5
- 《賛助会員コラム》・《各部局報告》・《求人情報》 6~7



第29回 医学会総会 2015 関西

医学と医療の革新を目指して —健康社会を共に生きるきずなの構築—

一般公開展示に当会は参画しました

医学・医療分野で日本最大の学会・展示会である「第29回 医学会総会 2015 関西」が2015年4月11日～13日、国立京都国際会館(京都市)をメイン会場に開催された。「医学と医療の革新を目指して —健康社会を共に生きるきずなの構築—」をメインテーマに、100を超えるセッションが設けられた学術講演と、テーマ展示、企業展示で構成された学術展示が行われた。今回は京都だけでなく、一般公開展示「未来医XPO'15」(3月28日～4月5日)を神戸で、連携イベント「医と健康フォーラム2015関西」(3月20～22日)を大阪で、また、「医療チーム 学生フォーラム」などのプレイベントを関西6府県で行うなど、100年以上の歴史を持つ医学会総会として初めての“オール関西”で行われた。

医学分野では、ゲノムに立脚した「個の医療」、発症前の予防を目指す「先制医療」、機能を失った組織を再生する「再生医療」、そして「がんの新しい治療」をテーマに挙げた。医療分野では「少子高齢化



を迎える中、どう持続可能な医療・社会を構築するか」を大きなテーマとした。

一足先(3月28～4月5日)に神戸市で開催された一般公開展示「あなたの暮らしと医の博覧会～未来医XPO'15」は、4つの“アイランド”を巡りながら最新の医学・医療に触れることができた。それらは世界で活躍する日本人スーパーサイエンティストに

よるオープンフォーラムを開催した“スマートアイランド”、最新の手術室を再現し医師が最先端手術のデモンストレーションを行ったり、医療体験ができるイベントが実施された“メディカルアイランド”、生きたiPS細胞の顕微鏡観察や研究プロセスの疑似体験ができた“サイエンスアイランド”、最先端の検査機器で現在の健康状態を測定した“ヘルスケアアイランド”である。当会は神戸国際展示



場1号館2階“ヘルスケアアイランド”内に併設されたテーマ展示コーナー（ヘルスチェックプラザ）にて、血圧脈波検査、内臓脂肪測定、超音波踵骨測定を担当し、簡単な検査説明など行った。一般の方に、臨床検査技師について少しでも理解していただけたと思われる。一般市民や学生など若い世代の参加を重視し春休み期間に開催されたので、会期9日間で延べ約30万人を越える参加者が訪れ、大盛況のもと終了した。

各部局報告

広 報

臨床試験支援の活動を再開 日臨技 代表委員を派遣へ「CRCは職域の一つ」

日本臨床衛生検査技師会（日臨技）は、前執行部時代から休会状態となっていた臨床試験支援財団での活動を再開する。同財団の委員会に委員を派遣し、今年9月に神戸市で開かれる「第15回CRCと臨床試験のあり方を考える会議」の企画運営に参画する。CRC（臨床研究コーディネーター）として働く臨床検査技師は多く、支援する姿勢を明確にする。政府が新規医療機器や医薬品の開発促進策を講じる中、日臨技では、「CRCは臨床検査技師の職域の一つ」として、臨床研究での果たす役割はさらに拡大するなど判断し、財団での活動再開を決めた。

（平成27年5月1日発行 THE MEDICAL & TEST JOURNALより抜粋）

味覚・嗅覚検査、講習会受講が「必要」 厚労省通知で明確化

厚生労働省は、臨床検査技師が行う生理学的検査に4月から位置付けられた味覚・嗅覚検査について、「新たな生理学的検査を行うに先立って、日本臨床衛生検査技師会が実施する研修を受ける必要がある」とする医政局医事課長を3月31日付で各都道府県に送付した。日臨技が1月から全国で開催している講習会では味覚・嗅覚検査もカリキュラムに含まれているが、制度上も受講義務を明記した。

（平成27年5月1日発行 THE MEDICAL & TEST JOURNALより抜粋）

平成27年度(第55回)日臨技近畿支部医学検査学会 一般演題(口演のみ)募集のお知らせ

あなたの演題を通して、臨床検査の未来を語りませんか?
熱い想いが詰まった演題をお待ちしております!

会 期: 平成27年10月17日(土)・18日(日)
会 場: 大阪国際交流センター
テ ー マ: 臨床検査から医療への主張 ~点から線そして面へ、臨床検査の可能性を求めて~
演題募集期間: 平成27年5月1日(金)~6月30日(火)
ホームページURL <http://www.osaka-amt.or.jp/kinki55/>
Eメールアドレス(学会専用) kinki55@osaka-amt.or.jp

学術部 特別企画の紹介

生理検査部門: シンポジウム

10月17日(土) 13:00~16:00

Theme「生理検査におけるパニック値」

ねらい 生理検査におけるパニック値は、単純に数値で判断できることは稀であり、患者の症状、波形、画像などから総合的に判断しなければならない。
今回のシンポジウムでは、主治医への報告が必要な所見を整理し、さらには、次に必要となる検査のサジェストなどについてもディスカッションしたい。

司会 座長 安保 浩二 (大阪市立大学医学部附属病院)
増田 信哉 (京都民医連中央病院)

シンポジスト 心電図検査
津田 裕美子 (福井大学医学部附属病院)
心エコー図検査
大前 嘉良 (紀南病院)
腹部エコー検査
監 英彦 (医療法人明和病院)
脳波検査
小林 昌弘 (天理よろづ相談所病院)

免疫血清部門: 教育カンファレンス

10月17日(土) 14:00~17:00

Theme「教えます! 免疫学的検査結果解釈のコツ」

ねらい あなたはその値を正しく説明できますか? HCV抗体検査で「1.10 S/CO」という測定値が得られた時、臨床側へどのように報告しますか? 腫瘍マーカー検査で前回値が異常高値なのに今回は基準範囲内だった場合、どうしますか? 異好抗体って測定を邪魔するときはいつも低い値を打ってくるのでしょうか? そんな免疫学的検査の結果は時にわれわれの頭脳を悩ませます。
今回の教育カンファレンスではそんなへそ曲がりな検査結果の解釈方法をやさしく解説していただく予定にしています。
日頃、免疫検査に従事されている先生方以外にも日直で関わりのある方々、あるいは他部署で免疫反応の原理を使った検査を行っている方々、また、これらの検査結果解釈を指導・教育するお立場の方々にもひじょうに有用なカンファレンスになるはずです。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

司会 座長 川原 宏恵 (大阪市立大学医学部附属病院 中央検査部)
上田 一仁 (市立芦屋病院 臨床検査科)

シンポジスト 1. 免疫学的測定方法が今後向かうべき道~
非特異反応や異常反応は回避可能か?
福田 滋弘 (シスメックス株式会社 学術部学術3課)
2. 免疫学的検査結果解釈の極意を教育する~
ISO15189の視点から
山本 憲司 (大阪医科大学附属病院 中央検査部)
3. 感染症検査~
カットオフ値付近の報告結果について尋ねられたら?
松川 裕一 (独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 検査部)
4. 免疫学的検査結果の変動要因を理解して
結果解釈に活かす!
石井 里佳 (兵庫医科大学病院 臨床検査部)

臨床化学部門: シンポジウム

10月17日(土) 14:30~16:30

Theme「ブラックボックス化している自動分析装置を技師の手に取り戻す」

ねらい 「近年の自動分析装置において反応タイムコースチェック機能など測定状況監視機能を有する装置や主・副波長以外の複数波長による測定などメーカーごとで様々な機能があるが、現場の技師がその論理や技術を理解せず使用していないことが多く、装置メーカー・試薬メーカーの設定をそのまま使用している。」
今回のシンポジウムでは各装置メーカーの特性・反応タイムコースの確認におけるポイント・試薬検討時注意点をユーザー視線から検証していくことを考えております。

司会 座長 東 正浩 (市立敦賀病院)
元中 秀行 (近江八幡市立総合医療センター)

シンポジスト 猪田 猛久 (天理よろづ相談所病院)
山本 裕之 (大阪赤十字病院)
和田 哲 (和歌山県立医科大学附属病院)

病理部門: シンポジウム

10月17日(土) 14:30~16:30

Theme「認定病理検査技師に求められるもの」

ねらい 平成26年に認定病理検査技師制度が新たに発足した。病理医不足や病理検査業務の多様化などの問題点があり、以前にPA(パソロジーアシスタント)制度が議論されたことがある。これは病理技師の業務拡大があり、病理標本のスクリーニング業務などが含まれているなど問題点が多く実現はしなかった。
今回発足した新制度は、標準化された病理標本作成技術、病理解剖助業務、遠隔病理診断に係る業務、作業環境設備や感染対策、医療廃棄物の処理、毒物劇物の管理、後進の指導などを目的に挙げており、以前の制度とは性格が異なることとされている。しかし、発足の経緯や目的に関する情報が乏しいため、このシンポジウムで必要性や今後の方向性を議論し、認定病理検査技師に求められているものを明らかにしたい。

司会 座長 栢尾 茂 (奈良県西和医療センター)
三原 勝利 (星ヶ丘医療センター)

シンポジスト 吉澤 明彦 (京都大学医学部附属病院)
小林 真 (兵庫県臨床検査研究所)
稲垣 充也 (公立那賀病院)
滝野 寿 (名古屋大学大学院)



賛助会員

コラム [38]

株式会社 カイノス
www.kainos.co.jp

(株)カイノス

～臨床検査薬のパイオニアとして～

熊坂 拓也 (大阪営業所)

今月は株式会社カイノスがコラムを担当させていただきます。カイノスの社名は、ギリシャ語の「新生の、革新的な」を意味する言葉に由来します。いつまでも新鮮な気持ちで広い視野を持ち、医療の世界へ貢献していきたいと願う、創立からの想いが込められています。また、カイノスの「ブドウ」のロゴは、新しい思想や内容を実現するには、それにふさわしい体制が必要であるという意味の「Don't put new wine into old bottles」(新しいブドウ酒を古い革袋に入れるな!)という旧約聖書のことわざから用いています。

カイノスは1975年(昭和50年)に設立してから現在に至るまで、生化学・免疫・遺伝子といった幅広い臨床検査分野で、独自の研究開発を進めています。生化学分野ではいち早く酵素を用いた検査試薬を開発し、この系譜は現在でも腎機能を中心とした各種液状試薬の研究開発に息づいています。免疫分野でもEIA法によるAFP測定試薬の発売から、磁性微粒子を用いた全自動EIAシステムを開発しました。現在はこれら開発経験を活かした他社との共同開発から、高感度な化学発光酵素免疫試薬の開発を継続しています。遺伝子分野では、RNAをターゲットにした定温核酸増幅法NASBAの特性を活かした試薬開発を行ってきました。

また、2011年(平成23年)にはGrifols社のゲルカラム遠心凝集法に基づく、全自動輸血検査装置WADianaCompact及びErytra、これらの専用試薬DGGelカードを発売致しました。東京本社にはWADianaCompactとErytra両機を設置、大阪営業所にはWADianaCompactを設置致しておりますので、気軽にご訪問頂ければと思います。

これからもカイノスは国内外の企業と協力し、輸血分野も含む臨床検査の研究・開発に邁進します。今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本臨床検査自動化学会 2014 神戸にて



① 全自動輸血検査装置 Erytra



② 全自動輸血検査装置 WADianaCompact

学 術**免疫血清検査研修会**

(4月23日)

● 講演要旨「ご存知ですか？腫瘍マーカーの性格の違い」

萩原 貴裕 (シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス(株) CAI事業部)

現在用いられている腫瘍マーカーの多くは癌細胞からだけで産生されているものではなく、正常細胞や良性細胞からも産生されており、その数値からだけでは癌であるのかそうでないのかを判別することは困難で、癌以外で高値になる疾患もあれば、癌でも高値にならないケースも多々あります。

このような腫瘍マーカーですが、実はそれぞれに性格があります。

例えばAFPとCEAは真逆の性格をもった腫瘍マーカーと見ることができます。

AFP：癌以外での高値は少ないが、癌以外でも高値になる時は極めて高値になる

CEA：癌以外での高値は多いが、癌以外では左程高値にはならない

なぜこのような性格の違いがあるのでしょうか？それは、癌以外での高値になる機序がカギを握っています。AFPは基本肝臓に対して臓器特異性がありますので、癌以外での上昇例も主に肝疾患関連になります。が、AFPの癌以外での上昇時は、AFP自体の産生能が高まって血中濃度が上昇する傾向があります。特に肝細胞の再生期にAFP産生能が高まることが報告されています。一方でCEAは様々な臓器に存在します。特に、体の中と外を分ける粘膜上に広く分布しています。ですので、粘膜組織が損傷を受ける様な事があればCEAは上昇する傾向にありますが、粘膜自体は血管とは直接接しておらず、いくつかの層によって隔たれております。そのため粘膜組織に損傷が発生しても血中に大量に漏れ出てきて極めて高値を示すという様な事があまりないのです。この様な癌以外での上昇機序に加えて次の2点に着目すると、各腫瘍マーカーの性格がよりはっきりと見えてきます。

1点目は臓器特異性です。これは臨床乖離＝癌以外での陽性に関連します。

2点目は多様性です。これは測定方法間の乖離に関連します。

今回は現在主に使用されている腫瘍マーカーの中でも特にAFP、CEA、PSAを中心に、基礎的な部分に立ち返り、癌以外で高値になるケースを臨床的高値・アッセイ上の偽高値に分け紹介し、検査方法の問題と誤解されがちなケースについても併せて紹介させていただきます。そして腫瘍マーカー性質/数値の意味合い/見方を紹介し、日々の検査業務のお役に立てる様な情報を紹介させていただきました。

求人情報

*詳細は求人先に各自お問い合わせください。

● 県立姫路循環器病センター

交 通：JR姫路駅下車 北口からバス12分

採用条件：非正規職員

業務内容：病理検査（経験は問いません）

連 絡 先：079-293-3131（検査 桑島）

● 市立 芦屋病院

交 通：JR芦屋駅下車 バス20分

採用条件：嘱託・臨時職員（常勤）

業務内容：超音波検査、生理機能検査、採血
業務他

連 絡 先：0797-31-2156（総務課 管理担当）

● 西脇市立西脇病院

交 通：JR西脇市駅下車 バス20分

採用条件：臨時職員

業務内容：生理検査

連 絡 先：0795-22-0111（検査部 杉田）

● (医)川崎病院

交 通：市営地下鉄湊川公園駅下車 徒歩5分

採用条件：正社員、契約社員

業務内容：検体検査・生理検査業務、他

連 絡 先：078-511-3131 内線7563
(総務課 中満)